

文教協会報

No.685

(令和6年11月)

まなびの泉	ー新規事業「法教育」大垣モデル授業を実施しましたー…… 2
心のかよいあい	家庭で楽しく親子制作（三城幼保園）…………… 3
	「サマースクール in 東中」（東中学校）…………… 3
わくわく協働活動	大垣市スポーツ少年団について…………… 4
ぬくもり	「SOSの出し方に関する教育」の推進…………… 5
ふるさと・再見	江馬細香と『源氏物語』…………… 6
声 こえ VOICE	「ボランティアで学校も地域も元気に…」…………… 7
～文教のまち 大垣～	「大垣市文教協会60周年記念式典」…………… 8
ふるさと美術散歩⑧	大垣市守屋多々志美術館を訪ねて…………… 8

原画	お化けの特徴	リライト作品
	キーイキ（木息） （どんなお化け？） いつもは二酸化炭素を吸って酸素を出すのが、この頃は大気中の二酸化炭素量が多くなり、ときどき酸素ではなく二酸化炭素を吐くようになり空気を汚してしまう。自然環境の崩壊危機に怒るお化け。	
	シロオバーケ （どんなお化け？） 昔ながらの家や歴史のある建物がどんどんなくなってしまう孤独を感じるお城のお化け。昔と今の建物がバランスよく並んだ平和な街を願っている。人が建物や風景を大切にできなくなると、悲しくなってその場所から飛んでいってしまう。	
	カタムイトー （どんなお化け？） 外国人差別、障がい者差別、貧困、格差、性差別など、世の中の弱者を偏った目で見ってしまう天秤のお化け。大切なことが軽く見られて天秤が傾いてしまう。真ん中の目は地球の今を見ていて戦争や利権のことも考えている。	

「大垣市×SDGsお化け」の受賞作品 紹介①



—新規事業「法教育」大垣モデル授業を実施しました—

大垣市教育委員会では、大垣市第2次教育振興基本計画に基づいて、さまざまな事業を計画・実施しています。今回は、No.684で掲載した「法教育」についてどのような授業が行われているのか紹介します。

○法教育

変化の激しい社会をたくましく生き抜く意欲や力の育成を図るため、小学校年代から発達段階に応じた法的なものの見方を身に付け、自分たちの課題を自分たちで解決する基礎を学ぶ機会として、法教育を進めています。

岐阜県弁護士会の協力を得て、同会弁護士を講師として招き、法の基礎（背景）にある価値を学んでいます。その上で、もめごとや課題のよりよい解決方法を考えることを目的として実施しました。



「法教育」授業の様子

自分の考えの理由を、法律に基づいてじっくり考えたり、講師の先生から助言をもらいながら、グループで一つの答えを導こうと活発に議論したりできました。

今年度は小・義務教育学校の10校の小学校5年生を対象に行いました。2年間ですべての小学校で実施する予定です。

実施校	学習テーマ
興文小学校	他人の権利を尊重すること
西小学校	正義ってなんだろう？
北小学校	他人の権利を尊重すること
日新小学校	「もめごと」の解決方法
綾里小学校	なにが公平・不公平？
小野小学校	なにが公平・不公平？
赤坂小学校	「正しい決め方」を決めよう
青墓小学校	リーダーを選ぼう！
墨俣小学校	約束をする・約束を守る
上石津学園	なにが公平・不公平？

【児童アンケートより】（小野小学校）

- ・公平・不公平は人によって感じ方が違う子もいるんだと思った。
- ・今後、不公平だと思うことがあったら、本当に不公平かもう一度考えたいです。
- ・今後、授業で例に挙げられていたような事になったら、どちらとも納得できる意見を出して、解決したいです。

（学校教育課 塚本 陽治・上野 博行）



家庭で楽しく親子制作

三城幼保園 PTA会長 日比野 明日菜

みなさんは家庭教育学級の活動や目的を聞かれて答えることができますか？私はPTA活動に役員として携わることがなければ答えられなかったと思います。岐阜県では「家庭教育学級とは、保護者が「子育て」や「しつけ」について学んだり、悩みを話し合ったり、保護者同士が仲良くなったたりする場」としており、その学習形態は5つに分けられています。

三城幼保園では今年度の家庭教育学級の行事として、各家庭において親子で「おにぎり作り」と「小物入れの製作」に取り組みました。これらは「在宅型取組」に位置付けられています。

完成した作品は幼保園内に展示し、送迎時に子どもと保護者が一緒に観覧できる期間を設けていただきました。一生懸命おにぎりを作る様子や美味しそうに頬張る写真に可愛らしいイラストが添えられ、木製の小物入れキットは直接絵を描いたり、シールやビーズで装飾したりと個性にあふれていました。子どもたちは自分やお友だちの作品を見つけて「みて、みて！」と楽しそうでした。

昨今では共働きの家庭が多く、PTA活動を負担に思う保護者も少なくありません。「年間行事に加え体調不良でのお迎えであつという間に有給休暇が消えていく」という声も聞こえてきます。こうした状況の中、在宅型の家庭教育学級行事は時間に縛られず気軽に参加できる良い取組だと思いました。

今後も子どもが健やかに成長できることを願い、園と連携を取りながら時代にあった活動が出来るよう邁進してまいります。



制作展示の様子

「サマースクール in 東中」

東中学校 PTA会長 土川 達也

今年度は、「PTAの再生～一人ひとりが出来る活動を～」を東中PTAのスローガンに掲げ、子どもたちが安心して充実した学校生活を過ごせるように、会員一人ひとりが出来るときに、出来る活動をする仕組みづくりを模索しながら活動しております。

東中PTAでは、2年前より「サマースクール in 東中」を開催しています。

この活動は、子どもの学習場所確保や学習支援を目的とし、夏休み期間の1週間、学校の会議室等を学校に開放していただき行っています。

学習支援では、子どもとの年齢も距離も近い高校生や大学生の支援スタッフによって、分からない箇所を教えたり、高校・大学生生活の体験談を話したりと、子どもに寄り添った支援をしています。

今年度は、地域と学校、PTAで連携を図り、実行委員会組織を立ち上げての活動に変更しました。

保護者にも大変好評で、年々参加人数が増加しており、今年度は総勢200人近い子どもたちが参加してくれました。

子どもからは「静かで涼しい環境の下、勉強がはかどる」、「学生の方々に分かり易く教えてもらえた」という感想がありました。また、学生支援スタッフからも「生徒と交流でき、教えることが出来た」、「教師になる夢のいい体験が出来た」等、双方にとって非常に有意義な時間を過ごせたことに、この活動の達成感がありました。

今後も活動していく上でさまざまな意見はありますが、さらにアップデートしながら、子どもたちの学習環境や勉学の向上のお手伝いをしていければと考えています。

この活動に対して、関わっていただいた地域や学校、学生スタッフの方々に感謝申し上げるとともに、さらに連携を深めながら、子どもたちが有意義な学校生活を過ごせるように活動していきたいと思っています。



サマースクール in 東中の様子

大垣市スポーツ少年団について

大垣市スポーツ少年団は昭和40年（1965）4月に設立され、日本スポーツ少年団が掲げる「一人でも多くの青少年にスポーツの遊びを提供する」「スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる」「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」の理念のもと、大垣市内の青少年期スポーツの普及・振興を進めています。また、本団は各種目のスポーツ活動のみならず、野外活動・学習活動・奉仕活動・スポーツテスト等をとおして集団活動を身に付け、将来、立派な社会人として成長してもらえるように青少年の育成に取り組んでいます。



西濃スポーツ少年団交流大会

さて、本団は21種目72単位団あり、団員数約1,650名、公認指導者約350名を有する組織となっています。本団では、市内小学生の少年団入団率30%を目標とし、一時期は27%と目標まであと数パーセントに迫る年もありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で団員数が激減したこと等もあり、令和6年度の入団率は18.1%となりました。また近年、スポーツ以外にさまざまな魅力あふれるものが増えてきていること等から、スポーツに親しむ機会が減ったことも団員数減少の要因と思われます。しかし、スポーツは、プレーしている人や、観戦している人に活力や感動を与えてくれるものです。スポーツで得られる活力や感動を青少年に体感してもらい、その姿を見て保護者の方々も活力や感動を得てほしいと思っています。今後、より多くの方々にそのような体験をしてもらうため、団員募集や魅力のある事業を展開してまいります。

最後になりますが、関係団体、関係者の方の支えもあり、本団は、今年で60周年を迎えることができました。今後も、70年、80年ひいては100年と、青少年とともに歩んでいけるよう鋭意努力してまいりますので、本団へお力添えをくださいますようお願い申し上げます。



大垣市少年団体交歓大会

【少年団事業】

- 5月中旬 西濃スポーツ少年団交流大会
- 6月上旬 育成母集団研修会
- 6月中旬 新規団員獲得事業（OGAKIスポーツフェスティバル）
- 7月下旬 リーダー宿泊研修会
- 7月下旬～8月上旬 宿泊研修などの各種派遣事業
- 9月中旬 指導者資質向上研修会、スポーツ少年団だより「垣っ子」発行・配布
- 10月上旬 大垣市少年団体交歓大会・市内パレード
- 11月下旬 講演会・功労者表彰式
- 1月下旬 スポーツ少年団入団募集要項配布
- 2月上旬 スタートコーチ（ジュニア・ユース）養成講習会
- 2月中旬 指導者資質向上研修会

（公財）大垣市体育連盟 遠藤 剣

児童生徒の悩みに寄り添える教育を目指して

「SOSの出し方に関する教育」の推進

「SOSの出し方に関する教育」とは、児童生徒の自殺予防を目的とし、困難な事態や強い心理的負担を受けた場合等における対処の仕方を身に付けるための教育のことを指します。すなわち、「SOSの出し方に関する教育」は、心の危機に陥った際、自身で対処できる力を身に付けるとともに、一人で問題を抱え込まないよう、適切に援助を求められるような態度（援助希求的態度）、及び能力の育成を目的に行われる予防教育といえます。

本市においても、「おおがき生き活きヘルスプラン」に「児童生徒のSOSの出し方に関する教育の推進」が位置付けられており、各学校で年1回以上（夏季休業日前には必ず1回）実施しています。

【市内中学校での実践例】

今年度7月上旬に実施された、市内中学校の「SOSの出し方に関する教育」の実践事例を紹介します。

この実践では、以下の3点をねらいとして授業を実施しました。

- ①「思春期のこころとからだ」について知る
- ②「ストレス」について理解する
- ③「ストレスとうまく付き合う方法」について考える



市内中学校 実践の様子

①については、中学生の多くの生徒が思春期を迎える時期であり、身体の成長とともにホルモンバランスも崩れやすく、情緒が不安定になりやすい時期であるということを生徒自身が自覚することから始めました。これまでは気にならなかった周りのことについて考えたり、悩みや不安を抱えたりすることは普通のことであることを理解しました。

②については、ストレスは大人、子ども関係なく誰にでも生じるものであり、外部からのさまざまな刺激によって心や身体に反応が生じること、また思春期は、この反応が特に敏感な時期であり、心と身体にさまざまな影響を与えることを学びました。

③については、思春期のストレスに対してどのように付き合っ（対処して）いくかを考えました。そのための具体的な方途として、以下の方法を学びました。

I 毎日エネルギーを蓄える

…規則正しい生活を送る。健康な体づくりが健康な心の第一歩となる。

II 自分が感じやすいストレスや反応に早く気づき、対処方法を工夫する

…自分がストレスを感じたとき、どんな方法で解決するのかをワークシートに書き出し、ストレスを発散するためにはどのような方法がよいのか理解を深める。

III 誰かに相談する

…「相談する」という方法は「気持ちの発散」と「問題の解決」の両方の効果がある。相談するポイントとして、まずは勇気をもって相談すること。相談しても伝わらなかったり理解してもらえなかったりすることもあるが、それでも諦めずに、自分のことを分かってくれそうな人を探したり、相談相手を替えたりといった工夫も必要である。

相談することは恥ずかしいことでも、弱いことでもなく、ストレスや問題を解決するためにとっても有効な手立てであること、相談できる存在が周りにはたくさんいるということを全校で確認しました。

このような学校現場での実践と併せて、身近にいる私たち大人が児童生徒の悩みに寄り添い、SOSを受け止める心構えをもつことで、子どもたちが安心して相談できる環境をつくっていきたいと考えています。

（大垣市教育総合研究所 清水 裕士）

今年の大河ドラマ「光る君へ」で、注目されている『源氏物語』は、平安時代中期の作家紫式部により作られた世界最古といわれる長編物語です。54帖からなる物語の世界は、現在もお、マンガなどで表現されたり、さまざまな作家たちにより数多くの現代語訳本が出版されたりしています。

江戸時代の大垣出身の女流文人である江馬細香もまた、漢詩でこの『源氏物語』の世界を表現しています。

※文人とは、漢詩文や書画など風雅の道にたずさわる人のこと。

1 女流文人 江馬細香

江馬細香（1787－1861）は、天明7年（1787）、藤江村（現在の大垣市藤江町）に大垣藩医江馬蘭斎の長女として生まれました。名前は多保または畠、字を細香、号を湘夢といました。幼



江馬細香筆「白描竹」
（大垣市立図書館蔵）

いころから書や画の才能に富み、13歳のころに京都の玉潁和尚に画を学び、墨竹画（竹の水墨画）で、有名となりました。27歳のころに儒学者頼山陽に入門し、漢詩や書などを学びました。書や画だけでなく、漢詩を作ることも上手く、才能のある女流文人として、知られていきました。

2 師・頼山陽

細香は、文化10年（1813）、山陽の門人となりました。

以後、手紙により添削を受けたり、たびたび、京都にいる山陽のところへ会いに行き、直接、

漢詩や書の指導を受けたりしました。京都では、山陽の知人や門人である多くの文人たちと知り合い、交流しました。

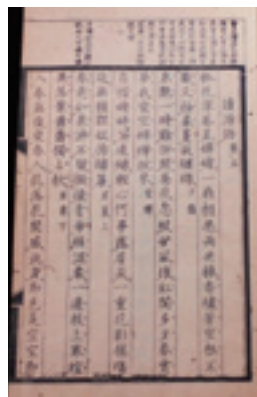
また、山陽の仲介により、清国の詩人江芸閣と漢詩の贈答をしました。

そのようななか、山陽から、『源氏物語』を漢詩で表現することを勧められます。

3 『源氏物語』を詠む

細香は、文政12年（1829）43歳から天保5年（1834）48歳の間に『源氏物語』をテーマに漢詩を作りました。

山陽からは、「54帖の物語を、各話七言絶句の形式で作り、跋文を五言古詩で作るとよい。」という助言を受けます。



江馬細香の漢詩集
『湘夢遺稿』『読源語』部分
（大垣市立図書館蔵）

残念ながら、54篇全てが残っているわけではなく、「夕顔」、「空蟬」、「若菜上」、「若菜下」、「幻」、「帚木」、「鈴虫」、「御法」、「勾宮」の巻の漢詩を見ることができ、各話の内容が七言絶句で表現されています。

また山陽から、五言古詩で作することを促された跋文は七言古詩で作りました。跋文の「詠紫史」で、細香は「物語全般に男女の仲が描かれているが、どうか咎めないでほしい。作者は人の情けの底を見極めて、描こうとしたのだから。私もまたその深い意図を理解しようと物語を読みすすめます。」と『源氏物語』の世界を解釈しています。

訳文・参考文献：門玲子著／入谷仙介監修

江馬細香詩集『湘夢遺稿』

（図書館歴史研究グループ 長瀬 とも）

「ボランティアで学校も地域も元気に…」

大垣市教育委員会 社会教育スポーツ課 澤田 文彦

1 はじめに

現在、少子化、核家族化等の社会構造の変化により、子どもたちが学校や家族以外の大人や地域とつながる機会が減少しています。

そんな状況も踏まえ、大垣市では、「できる人が、できるときに、できることを」を合言葉に、「学校支援ボランティア」及び「教育支援ボランティア」の事業を推進しています。

2 ボランティアの活動

①「学校支援ボランティア」事業

ボランティアの方には、お住まいの校区の小・中・義務教育学校に登録してもらい、各学校のニーズに応じた活動をしていただいています。活動は、特別な資格は必要なく、ご自身の都合の良い日時に行い、市のボランティア保険に加入して活動していただきます。



学校支援ボランティアの流れ

学校支援コーディネーターの方を中心に、学校の要望、ボランティアができることを踏まえながら、調整してもらいます。

以前、初めて大掛かりな清掃活動を行う学校支援ボランティア活動に同行しました。学校支援コーディネーターの方が、地域の別の会で声をかけ、賛同される方が多く集合してくださいました。お互いに「あれ、久しぶりね。元気だった?」「中学校に来るのは、子どもが中学生の時以来だから、何年ぶりかしら…」そんな会話から、普段は掃除しない箇所の窓ふきが始まりました。休み時間には生徒からお礼の言葉をかけられ、「こちらこそ、元気をもらったわ」という感想が多く聞かれました。



室内清掃

②「教育支援ボランティア」事業

各学校で登録されている「学校支援ボランティア」の活動範囲を、複数の小中学校・保育園等まで広げて活躍していただくのが教育支援ボランティアです。社会教育スポーツ課に「大垣市教育支援人材バンク」を設置しており、地域みなさんがこれまで培われたさまざまな特技や趣味を生かし、学校活動を支援していただいています。



救命講習の補助

学校では、全教育活動で、地域づくりに参画するための力を育てています。自分たちの目標を達成させるために仲間とどのように力を合わせるのか、自分と違った意見の仲間とどのように折り合いをつけるのか等…。これらは地域の大人が日々営んでいる行為と同じで、学校ではその基礎を育てています。そんな子どもたちが、ボランティアで活動される大人を目にしたり地域の行事に参加したりすることは、とても大切な経験です。

また、学校や子どもにかかわる地域の方が増えていくことは、子どもから元気をもらう地域の方が増えるとともに、地域のつながりをつくっていくことになります。

3 終わりに

そんなボランティアの活動も高齢化による人材不足は否めません。しかし、地域全戸に募集チラシの配布、他団体との連携、口コミで協力を求めるなど、地道な営みを継続しています。



PTAとプール掃除

今後も、地域の方にボランティア活動に参加していただくことで、地域全体で子どもたちの学び（子どもたちの生きる力や豊かな心）を支援していくことを目指していきます。また私事ですが、長年教育現場でお世話になってきたこともあり、今後も、大垣市の子どもたち、住んでいる地域に恩返しをしたいと思っています。



～ 文教のまち 大垣 ～

「大垣市文教協会60周年記念式典」

8月2日（金）、大垣市文教協会60周年記念式典を開催しました。

第1部では、小川会長より60周年記念事業とおして、子どもが主人公の未来のすてきな大垣づくりを行っていききたいとの決意が述べられました。また、来賓の石田市長様、空市議会議長様からご祝辞を頂戴しました。

第2部では、子どもが主人公の「未来のすてきな大垣」づくり事業記念イベントを行いました。記念イベントでは、「おおがき子どものまちスマスタウン」の紹介、「大垣市×SDGsお化け」受賞者の発表・総評、パネルディスカッションを実施しました。パネルディスカッションでは、パネリストに石田仁 大垣市長、吉田利佳様（大垣警察署）、佐藤友帆様（大垣女子短期大学）、上野寛子校長（興文小学校）、進行役に栗山圭介氏（一般社団法人GLIP）を迎え「お化けと創る“未来のすてきな大垣”」をテーマ

に活発な意見交換が行われました。

式典の最後は、細江副会長からあいさつがありました。「60周年事業は、発展し育っていく事業であると思っている。子どもたちの中にも根付いていって欲しいと考えている。そのために、会員のみなさまにご協力をいただき、ともに育てていってほしい。」との言葉で締めくくられました。



第2部 パネルディスカッションの様子
(学校教育課 鈴木 宏教)

ふるさと美術散歩⑧ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《赤穂の灯（浅野内匠頭の妻）》平成8年（1996）（大垣市蔵）

「時は元禄^{げんろく}15年12月14日、江戸の夜風を震わ^{やまが}せて、鳴るは山鹿流の陣太鼓^{ちゅうしんぐら}」で始まる忠臣蔵^{おおいしくらのすけ}。大石蔵之助以下47人の浪士が、吉良上野介^{きらこうずけのすけ}に対して仇討ちをした話を元にしたものです。

実は、浅野内匠頭^{あさのたくみのかみ}は第4代大垣藩主戸田氏定と母系上の従兄弟ということもあって、大垣藩も赤穂開城に大きく関わっています。そのようなこともあって、大垣市出身の守屋多々志は、忠臣蔵に大変興味をもっていたようです。

さて、忠臣蔵を描くとなれば、やはり吉良邸討ち入りのシーン、と思われがちですが、守屋

が描いたのは全く違う場面でした。

この作品は、赤穂浪士の討ち入りから1年後、主亡き後の赤穂の屋敷にたたずむ浅野内匠頭の妻・瑤泉院^{ようぜいゐん}を描いたものです。守屋は「夫の仇討ちのために、身を捨てて本懐を遂げた浪士達への感謝と、その結果自分と同じ境遇になった浪士の妻達への思い。瑤泉院を通して華々しい男達の裏にいた女性を描きたかった。」（山陽新聞1997年1月3日）と述べています。

晩年の作品では、画面をさまざまに分割する構成が多くみられますが、これは画面を縦線で3分割し、黒と対比した赤の背景に、瑤泉院を際立たせる構成となっています。

また、美しく咲いたまま花がポトリと落ちることから、首が落ちることを連想させる椿の花が、浪士たちの死を象徴するように描かれているのも印象的な作品です。

企画展「女性の美」

会期：令和7年1月11日（土）～3月9日（日）
歴史画家として活躍した守屋が描いたさまざまな時代・立場の女性をテーマにした作品の展示。

